

「看護医療総合」 5月24日

藤岡七海さん（助産師）のお話を聞いて

●私は将来助産師になりたいと思っていたので、現役で働いている助産師の方にお話を伺うことができ、改めて将来就きたい仕事について考えるきっかけとなりました。助産師とは自然(正常)な妊娠、出産、産後ケア、母乳育児、性教育の専門職のことだそうです。投薬、手術・医療行為などは行わず、人間が本来持っている「産む力」「生まれる力」「成長する力」を邪魔せず、引き出して高める役割を持っています。主にクリニックや救急医療センターなどの病院や助産院、訪問助産師、保健所などで働いているそうです。大抵は病院で勤めていますが、訪問助産師や保健所などで働いている助産師がいることは初めて知りました。訪問看護師や訪問診療などは聞いたことはありましたが、訪問助産師は初めて聞きました。また病院だけではなく保健所で母親学級や検診などでも活躍していると聞き、幅広く仕事だなと感じました。



実際に出産の動画を見ました。出産時に大量の血が出るのが知らなかったし、胎盤も初めて見ました。初めて出産の場面を見たのですごく衝撃的でした。それと同時に私には無理だ。その一方、出産時に妊婦さんに寄り添い、より良いお産ができるようにサポートができる助産師になりたいと思いました。

お母さんが楽になるようにその場しのぎのサポートをするのではなく、今後のことを考えて、相手の能力を信じ、限界はどこなのか正確な判断をすることで、自己決定や自分でできる機会を奪わない事が必要だと学びました。そのことによって、今後、困難が起きた時に自分で解決できる所は解決して、自分一人の力で無理な場合は周りに助けを求めることができるので、達成感があり満足した出産、育児になることが分かりました。それによって出産してよかったと感じることができ、自己肯定感も高まるそうです。全ては繋がっていると教えていただきました。ここ最近、本当に助産師になりたいのか自信を持って言えなかった所があったのですが、今回講義を聞いて改めて助産師という仕事の凄さややりがいを感じることができ、助産師になって頑張りたいという気持ちが湧いてきました。この気持ちを切らさず将来の夢を実現のために頑張っていきたいと思いました。

●・・・助産師は「寄り添うこと」、「人の力を信じること」が大切だと知りました。助産師とは産ませてあげるのが職業ではなく自然に正常な妊娠、出産、産後ケア、母乳育児や性教育の専門職者です。人間が本来持っている「産む力」「生まれる力」「成長する力」を邪魔せず引き出し、高めていくのが助産師の役割だとおっしゃっていました。そのためには「人の力を信じること」は大前提なのかなと思いました。最近では「命はお買い物」感覚になっているのではないかというお話を聞いて確かに、「子どもできたけど今はいらぬ」と思って中絶ができ、「今は仕事したい」と思えば卵子凍結することもできるので命の価値が下がってきているのではないかなと思いました。「命は別物」という言葉を聞いて本当にその通りだと思いました。誰にでもあるものだけれど命を与えられなかった子がいれば、与えられたけど長くは生きられなかった子もいるので粗末に扱ってはいけないと改めて気づくことができました。さらに「こんなもんか出産」が流行しているというお話も聞きました。苦しさやしんどさ、幸せをあまり感じることなく妊娠出産を終えてしまい「あーこんなもんなんだ出産って」と思う方が増えています。そのため乗り越えた感がなく、思い出に残るエピソードがないため、達成感が湧かずに満足できない出産になってしまうのだと知りました。出産体験は今後の子育てや母親の人生に大きな影響を及ぼします。どういう状況でどんな出産であったか覚えている方が多いと聞きました。だから助産師や看護師、医師に言われた、悪いことも良いことも覚えているためトラウマ出産になって子育てが上手くいかなくなってしまう方がいれば「また産みたい」と前向きに子育てを進めていける方がいると知りました。トラウマ出産になってしまうと自己肯定感や信頼度、幸福度が下がってしまい、虚無感や無力感、無価値感が上がってしまうそうです。その反対で出産の際に安心できる場や良好な人間関係が築けていると自己肯定感などは大幅にアップし、また産みたい、赤ちゃん可愛いと思うきっかけになります。たくさんの方にそう思うには何もかもその場その場の対応で済ませるのではなくその先のことを考えて寄り添っていくことが大切なのだと実感しました。100%出産を体験しないとはい言切れないのでこの日学んだことをこれから役立てていけたらいいなと思いました。

